

総合ビジネス学科における実践型教育について

A Study of the experiential education in department of general business

西川 三恵子

Mieko Nishikawa

山下 真弓

Mayumi Yamashita

目 次

- I. はじめに
- II. 本学科のビジネス実務領域科目について
- III. 実践型授業の取り組みについて
- IV. 考察
- V. おわりに

キーワード：ビジネス実務教育、実践型教育

I. はじめに

西川（2010）は人材育成の核心は経営理念であり、経営方針であるが、現在はワーカークの潜在能力を開発し、育成することでその人的価値を高め、組織もワーカーもともに成長すると言う考え方が定着していると報告し、本学の建学の精神「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」のとおり、総合ビジネス学科においても、時代に即した社会で求められる人材育成の一端を担っている。

日本の大学・短期大学・高等専門学校・専修学校あわせて 112 校を調査対象とした「厚生労働省・文部科学省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」によると、2011 年 4 月 1 日現在の短期大学（女子学生のみ）就職率は 84.1%であり、超就職氷河期とも新就職氷河期とも表現されるこの状況のなか、本学学生も知識や技能を修得し、短大卒業後の進路の決断を迫られているのである。

本稿では、本学でわれわれが担当しているビジネス実務の実践型教育において「わかる」から「できる」への取り組みについて若干の考察をおこなったものである。

II. 本学科のビジネス実務領域科目について

当学科のカリキュラムは総合教育科目領域と専門科目領域から成り、専門科目領域は「ビジネス情報」「キャリア秘書」「観光ビジネス」「ファッショントレンド」「メディカル

情報」「現代心理」の各コース領域科目群、共通履修科目群と、資格取得科目群で構成されている。

学生は各自の所属コース科目を中心に、それぞれの領域の卒業要件を満たし、社会人となるまでに取得しておきたい検定資格を見据え、さらには全国大学実務教育協会主催の「ビジネス実務士」「秘書士」「秘書士（メディカル秘書）」「情報処理士」の中から希望する称号取得に向けての履修計画を行なっているのが現状である。

同協会が称号取得のために必修科目と認定されている科目は「ビジネス実務士」で「ビジネス実務総論」「ビジネスワーク」「ビジネス実務」であり、「秘書士」「秘書士（メディカル秘書）」で「秘書概論」「秘書実務Ⅰ」「秘書実務Ⅱ」と、われわれがそれぞれ担当している科目でもある。

これらを開講セメスターで表化すると以下ようになる。

表1 称号必修科目開講セメスター

1 セメ	ビジネス実務士			秘書士・秘書士（メディカル秘書）		
		ビジネス実務総論	講義	西川	秘書概論	講義
	ビジネスワーク	演習	山下			
2 セメ	ビジネス実務	演習	山下	秘書実務Ⅰ	演習	西川
3 セメ				秘書実務Ⅱ	演習	西川

表1で示すとおり、ビジネス実務士の必修科目の配置については、まず1セメスターにおいて西川が講義による総論を行い、同時期に山下が演習を行ない、さらに2セメスターにおいて演習を行ない、秘書士・秘書士（メディカル秘書）の必修科目の配置については、まず1セメスターにおいて西川が講義による概論を行い、2セメスターと3セメスターにおいて演習を行なっている。

以下は、同協会が示す教育課程のガイドラインを抜粋、一部加筆したものである。

1. ビジネス実務士（必修：2科目以上4単位以上）

ビジネス実務総論は組織システムの理解を通じて、実践的なビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を学習し、次のような内容を含むものである。

- ① ビジネス実務の概念 ② ビジネス実務の推進力・能力開発
- ③ ビジネス実務とキャリア形成 ④ ビジネス実務の基礎知識
- ⑤ ビジネス実務の基本的技術等

（本学科目名：ビジネス実務総論 講義 2単位）

ビジネス実務演習はビジネス実務を実際に行なうために必要な知識・技術について学習し、次のような内容を含むものである。

- ① 日程計画 ② 会議と会合 ③ 情報の収集・活用 ④ 仕事と交渉
- ⑤ 企画とプレゼンテーション ⑥ その他ビジネス活動に必要な知識・技術等

(本学科目名：ビジネスワーク 演習 1 単位、ビジネス実務 演習 1 単位)

2. 秘書士・秘書士（メディカル秘書）（必修：2 科目以上 4 単位以上）

秘書学概論は秘書に関する基礎・専門知識について学習し、次のような内容を含むものである。

- ① 秘書の概念 ② 秘書の資質 ③ 秘書の業務 ④ 秘書と組織
- ⑤ 秘書の専門分化 ⑥ 秘書に必要な知識・技術 ⑦ 秘書と人間関係
- ⑧ 秘書の歴史等

(本学科目名：秘書概論 講義 2 単位)

秘書実務は秘書業務を実際に行なうために必要な知識・技術について学習し、次のような内容を含むものである。

- ① 指示と報告 ② 仕事の進め方 ③ スケジュールリング ④ 出張業務
- ⑤ 会議運営 ⑥ 接遇業務 ⑦ 話し方・言葉遣い ⑧ 慶弔と贈答
- ⑨ オフィスの環境整備 ⑩ 文書・図表作成 ⑪ 資料整理・ファイリング
- ⑫ その他秘書業務に必要な知識・技術等

(本学科目名：秘書実務Ⅰ 演習 1 単位、秘書実務Ⅱ 演習 1 単位)

さらに実践型の授業として、ビジネス実務領域科目の選択科目「ビジネスインターンシップ」を山下が1 Semesterと2 Semesterに演習1 単位でそれぞれ開講している。

Ⅲ. 実践型授業の取り組みについて

本学科は前身の商科を引き継いだもので、秘書士取得指導はその時代から導入しており、特に2 Semesterで秘書実務Ⅰの演習を行なうのは、2年前期には学生が就職活動のために電話でのアポイントメントを取り付けたり、面接対応などの立ち居振る舞いに必要な知識・技能が身につくようにと配慮されたものである。

しかし、男子学生や他コースの学生にとって秘書系科目は選択科目に過ぎなかったため、ビジネス実務学科に改組した際にビジネス実務士も新たに導入し、ビジネス実務総論とビジネスワークは卒業要件の必修にも設定し、学科で学ぶすべての学生がビジネスの基礎とビジネスマナーの基礎を1 Semesterで修得できるように組み入れた。

ビジネスワーク（1 Semester）で取り上げる主な項目は、採用時に重視する能力として多方面で多く取り上げられているコミュニケーション能力の育成に重点をおいた言葉づかいやビジネス文書作成などで、ワークシートを用いて、これらを正しく理解することを第一の目的としている。

秘書実務Ⅰ（2 Semester）で取り上げる主な項目は、秘書としての心配りを加味した状況設定による言葉づかいや立ち居振る舞い、電話対応、来客対応などで、ワークシートとロールプレイングを併用しながら、実際にあらゆるシチュエーションにも対応できるこ

とを第一の目的としている。

ビジネス実務（2セメスター）で取り上げる主な項目は、あいさつと言葉づかい（報告・訪問・苦情対応・電話対応・来客対応・プレゼンテーション）で、ワークシートとグループワークやロールプレイングを併用しながら体験的な学習を第一の目的としている。

秘書実務Ⅱ（3セメスター）で取り上げる主な項目は、一般的に秘書の主な業務として挙げられているスケジューリング、出張、慶弔・贈答、会議・会合の準備、文書作成などで、ワークシートをとおしてこれらを体得することを第一の目的としている。

ビジネスインターンシップは、所属しているコースや履修している科目の特性を生かせる職種を前提に研修先を選定・決定し、事前事後の講義と研修5日間（企業での実働40時間）の実務体験をとおして職業観や職業意識を培うことを第一の目的としている。

IV. 考察

大学の授業は一般的には週1回を15週行なうものであるが、われわれのようにビジネス実務の実践型教育を3セメスターとおして反復学習が可能な状況は、学生の能力や資質を高めることにとても有効に働き、なおかつ学習の習慣性をも生み出す。

1セメスターでは西川からビジネス実務総論でビジネス社会の組織や役割などの概念を学び、並行して山下からビジネスワークでビジネス社会人として職業に就くために必要なビジネスの基礎知識やマナーについて演習する。次に2セメスターでは西川が秘書実務Ⅰでは秘書としての心配りを加味した知識やマナーをロールプレイングで指導し、並行して山下がビジネス実務でビジネス社会を想定した対応について学ぶなど、教員間で連携しながら指導している。3セメスターでは秘書または秘書的業務を想定して体得すべく演習を行なう。

ビジネスインターンシップは正式なカリキュラムとなって2年めであるが、試行的インターンシップを合わせると3年めとなり、昨年度の履修生は全体の15%であったが、今年（23年）度の履修生は17%と、希望する学生は選択科目ながら年々わずかに増加傾向にある。

また、事後報告会での態度や言葉づかいの成長ぶりに、研修を真摯な態度で取り組んでいた様子が垣間見え、就職に対する意識の強さが見て取れる。実際、表2に示すとおり、昨年度にビジネスインターンシップを受講した学生の、平成23年10月1日現在の就職内定率は、1・2セメスター履修学生の場合には52.6%であるが、2セメスター履修生に限ると、就職内定率は69.2%であり、企業の方と毎日接することが就職活動のリハーサル的な役割をも果たしていたのではないかと推測できる。

表2 「ビジネスインターンシップ」履修者の内定率

	学生数 (人)	内定数 (人)	内定率 (%)
1 セメ履修者	4	1	25.0
2 セメ履修者	13	9	69.2
1・2 セメ履修者	17	10	52.6
就職希望者	78	22	28.2

われわれが今回テーマとしていた「わかる」から「できる」への取り組みであるが、秘書実務 I など講義の終了時に複数の学生から、基本的な言葉づかいやビジネスマナーなどは知っているつもりだったが授業を受けてそれが間違っていて使っていたことが分かったなどという言葉を耳にすることが多々あり、学生自身が「わかったつもり」から「正しく理解した」へと一歩前進したとも思えるが、それらの能力が習慣性として身に付いているか、言動としていつでもスムーズに表現することが「できる」かどうかは次のステップである。

また、本学が会場校となっているビジネス系の検定試験（実務技能検定協会主催：秘書検定、サービス接遇検定、ビジネス実務マナー検定、ビジネス文書検定、ビジネス電話検定）へこちらの働きかけに先駆け、取り組む学生や受験する学生が今年は増加傾向にある。さらに昨年末から今年度にかけて、秘書検定の 1 級、準 1 級、サービス接遇検定の準 1 級に学生が合格し、いずれの学生も筆記試験と実技試験を初回の受験で合格するなど、実践型の学習が着実に功を奏したと言えるのではないだろうか。今までは実技試験があるからと上級の検定には逃げ腰だったのだが、身近な学生が合格できたことで相乗効果を期待するところである。

さらに学生の学習習慣が定着し、上級の資格も取得できれば、就職活動やビジネス社会での自信にもつながり、これら善循環はビジネス実務教育の担当者としても喜ばしい限りである。

V. おわりに

文部科学省では平成 22 年度には産学連携による実践型人材育成事業－専門人材の基礎的教育推進プログラム－を募集した結果、表 3 で示すとおり、高崎経済大学の「学校種の枠を超えた連携による高度アグリビジネス人材育成プロジェクト」をはじめとし、大学院や専門学校など全 23 校が採択され、それぞれの分野における幅広い実践型人材育成に取り組んでいる。

これからの幅広い人材育成の手法にも着眼しつつ、まず短期大学の 2 年間のなかで、本学が学生を社会に送り出すビジネス実務教育の担い手として今後さらに実践型教育の充実を構築しなければならない。

「笑顔と感謝」「自分の役割と求められる行動」「自ら考え発言する」など、これらのキー

表3 平成22年度 テーマA「大学教育推進プログラム」

H22年度 産学連携による実践型人材育成事業－専門人材の基盤的教育推進プログラム－

大 学 等	プ ロ グ ラ ム 名 ・ 取 組 名
高崎経済大学	学校種の枠を超えた連携による高度アグリビジネス人材育成プロジェクト
産業技術大学院大学	産業デザイン分野における産学が一体となった実践型人材育成プログラムの開発
東京工科大学	ゲーム産業における実践的 OJT/OFF-JT 体感型教育プログラム
北海道情報専門学校	産学連携による実践的 ICT 教育フレームワークの開発
群馬法科ビジネス専門学校	産・学・専の連携による就業円滑化とW&B教育－社員を活かす労務と就職困難期教育－
中央情報経理専門学校 高崎校	経営&情報&リスク管理リテラシー教育開発－不況を克服する経営実践力教育講座開発－
中央情報経理専門学校	サービスマイスター育成プログラムの開発－中核人材のためのサービスマネジメントスクール構築を目指して－
御茶の水美術専門学校	産業界と連携した「ソフトバリュー商品開発プランナー」プログラム開発プロジェクト
専門学校 東京ビジュアル アーツ	エアープラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発 ～エアープラシメイクアップ プロジェクト～
日本工学院専門学校	病院勤務医が求める中堅医療秘書育成のためのレベル別教育プログラム開発
日本工学院八王子専門学校	企業連携によるものづくりスキル標準策定と教育プログラム開発による技術者養成の推進
日本電子専門学校	教員用情報デザイン教育教材開発及び普及推進プロジェクト
文化服装学院	高齢者衣料製作に向けた計測法と仮想着装プログラムの開発
ホスピタリティツーリズム 専門学校	大学と専門学校の教育の区分化と「旅徳教育」効果の実践および検証
臨床福祉専門学校	福祉用具に関わる実践型人材を産学連携により育成する教育プログラムの開発
富山情報ビジネス専門学校	分散開発における中堅システムエンジニア育成教育プログラムの開発
トライデントスポーツ 医療看護専門学校	理学療法士育成の教育基盤となる、臨床実習前の到達度確認試験の開発と普及
名古屋工学院専門学校	次世代ロボットエンジニア育成のミドルウェアを活用した実践的教育プログラム開発
中国デザイン専門学校	コンテンツ（ゲーム・CG）分野の日本版 NQF 構築の基盤整備プロジェクト
専門学校 穴吹医療カレッジ	看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力の教育プログラム開発
九州技術教育専門学校	産業界と連携した高品質組込みソフトウェア技術者養成プロジェクト～モデル駆動型開発を用いた初学者対するソフトウェア教育～
宮崎情報ビジネス専門学校	クラウドサービスの設計や開発を担う中堅人材を育成するプログラムの開発と普及
大育理容美容専門学校	理美容師の独立スキルマップと価値創造力・提案力育成教育の推進プロジェクト

ワードを基にそれぞれの職域で求められる人材となるべく、能力・資質の向上に一層の指導を試み、また、これらを理解できているがなかなか行動に移せていない学生や、これらの必要性を見出せていないため第一歩を踏み出すことができない学生などにも、講義やゼミナールなど、多方面から根気強くアプローチを試みていくことが学生意識全体の底上げにつながり、「できる」という自信を与えることができると考える。

引用・参考文献資料

- 金岡敬子 キャリア教育におけるビジネス実務教育の役割 聖母女学院短期大学研究紀 39 2010
- 長岡弘美、海尻賢二 履歴情報を用いた英単語学習ツールの開発 情報処理学会研究報告 コンピュータと教育研究会報告 2007 (69)
- 西川三恵子 企業内教育についての一考察 (1) 名古屋経営短期大学紀要 51 2010
- 文部科学省 H22 年度 産学連携による実践型人材育成事業－専門人材の基盤的教育推進プログラム－
<http://gp-portal.jp/src/ippan/program.cfm?id=46> 2011.10.11
<http://gp-portal.jp/src/ippan/shoukaiPage.cfm?id=2308> 2011.10.11